

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

重要度 【4】 大変に重要 【3】 やや重要 【2】 あまり重要でない 【1】 重要でない		教務部 2024年度重点目標																		
		項目1	目標	評価のあり方および教務規定に関し、新学習指導要領による教育課程や大学入試を踏まえながら検討を進める。																
			達成方法	①本校の新しい教育課程への移行を踏まえ、評価のあり方や進級規定等に関して、学年・教科と連携しながら検討を進めていく。評価における定期考査のあり方を検討する中で、定期考査の運営等に関しても改善できるところを見直していく。																
				②全体の改訂を踏まえて、教務規程の更新を早急にを進めていく。																
				項目2	目標	校務におけるICTの利活用を推進するとともに、システムのマニュアル作成を行う。														
達成方法	①教務システム・自動採点システムに関して調整を続けていくとともに、処理が円滑に行われるようにマニュアル等での支援を進めていく。																			
	②生徒・保護者の提出書類や、教育実習等に関して、オンラインで申請・提出可能なものがあるか検討を進めていく。																			
	項目3	目標	教務部担当の行事運営や通常業務に関して、これまでの状況を整理して改善していく。																	
達成方法		①昨年度は新入生ガイダンスの運営に関して整理を実施した。今年度は、過去の状況を整理して式典等の教務部が運営する行事について円滑な運営ができるように整理を進めていく。また、宿泊行事も含めた学校行事等についても今後に向けた提案をしていく。 ②授業運営・補講対応・備品対応等に関して、現状を確認し、可能な部分での改善を進めていく。																		
		項目1		項目2		項目3														
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度													
部署コード/平均		3.93	3.00	3.64	2.86	3.57	3.29													
1		4	3	3	2	4	3													
2		4	3	4	2	4	2													
3		3	3	4	3	3	3													
4		4	3	3	3	3	3													
5		4	3	4	3	4	4													
6		4	1	3	3	3	3													
7		4	3	4	3	3	3													
8		4	3	3	3	3	3													
9		4	3	4	3	4	4													
10		4	3	4	2	4	3													
11		4	3	4	3	4	3													
12		4	4	4	3	3	4													
13		4	3	3	3	4	4													
14		4	4	4	4	4	4													
<取組状況・次年度への課題など> 項目1：今年度の高校3年生は新課程入試1年目であるが、現在の教務規定の枠組みの中で、教科および学年で工夫しながら評価の運営を行った。また、在籍学年に関しては、進級規定・到達度規定を中心に検討を進めており、令和7年度に向けての方向性の最終検討を行っている。次年度はさらに到達度評価のありかたを再確認しながら、到達度と評定の対応およびコースによる評定のつけ方について検討していきたい。 項目2：今年度は成績処理および書類作成に関するマニュアルの充実化に努めた。作業に対して明文化されていないため学年依存になっている部分に関して統一化を図る段階に来ていると考える。次年度は調査書の発行に関して整理をしたい。 また、書類のオンライン化に関して、教育実習申込のオンライン化を進めている段階である。今年度できなかった部分について引き続き進めていきたい。 項目3：教務が関わる行事に関しては、整理が進んでいる状態と考えているので、各行事での反省を踏まえ次年度に引き継いでいく。																				

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

<div>重要度</div> <div>[4] 大変に重要</div> <div>[3] やや重要</div> <div>[2] あまり重要でない</div> <div>[1] 重要でない</div> <div>達成度</div> <div>[4] 75～100%</div> <div>(ほぼ達成した)</div> <div>[3] 50～74%</div> <div>(まあまあ達成した)</div> <div>[2] 25～49%</div> <div>(あまり達成できなかった)</div> <div>[1] 0～24%</div> <div>(ほとんど達成できていない)</div>	進路部 2024年度重点目標																		
	項目1	目標	生徒が自ら学ぶ授業及び探究的な活動を意識した授業の実践																
		達成方法	妻中サクセスの身体化をすべての教育活動で図る。																
			タブレットや電子黒板などのＩＣＴ機器の有効利用を図り、学び合いの機会を設ける。反転学習を実践し研究する。																
			授業の6要素「ねらい、メモ、反応、発表、質問、振り返り」の学習姿勢を身体化し、思考を伴う能動的な活動ができる授業の実践する。																
	項目2	目標	生徒の進路意識改革																
		達成方法	建学の精神や校訓を身体化し、学ぶ意味をすべての教育活動で考えさせる。																
			生徒及び保護者を対象とした進路ガイダンスを計画的に実施する。																
			各種検定試験の積極受検を奨励する。																
	項目3	目標	中学の基礎基本事項の定着																
		達成方法	朝のSHRの時間を有効利用し、基礎基本の定着を図る																
			基礎基本事項を精選し、その定着に教科担当者だけでなく学年団全体で取り組む。																
			チューター等を活用して、成績不振者の支援を徹底する。																
	項目4	目標	大学受験への支援態勢																
		達成方法	平常日の放課後及び長期休業中に実施する受験対策講座を充実させる。																
			大学入試に対応した講習を充実させる。																
	項目5	目標	教師の受験指導力アップ																
		達成方法	各種研究会や研修に参加して、最新情報を収集する。																
			大学入試問題の解き合いと、検討会を実施する。																
		項目1		項目2		項目3		項目4		項目5									
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度								
部署コード/平均		3.56	3.22	3.67	3.00	3.78	2.89	3.67	3.11	3.67	2.89								
1		3	3	3	2	4	2	2	2	3	3								
2		4	4	4	4	4	4	4	3	4	3								
3		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4								
4		4	4	4	3	4	2	4	3	4	3								
5		3	2	3	2	3	2	4	3	3	2								
6		3	3	4	3	3	3	3	3	3	2								
7		3	2	3	2	4	2	4	3	4	3								
8		4	3	4	3	4	3	4	3	4	3								
9		4	4	4	4	4	4	4	4	4	3								
<取組状況・次年度への課題など>																			
重点項目の重要度の認識については、概ね共有ができている。達成度については、項目3と項目5が低いスコアとなっているため、来年度は意識していきたい。																			

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

[illegible]

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

重要度 【4】 大変に重要 【3】 やや重要 【2】 あまり重要でない 【1】 重要でない 達成度 【4】 75～100％ （ほぼ達成した） 【3】 50～74％ （まあまあ達成した） 【2】 25～49％ （あまり達成できなかった） 【1】 0～24％ （ほとんど達成できていない）		入試広報部 2024年度重点目標																	
		項目1	目標	受験者増を目指し、定員確保にむけ学校全体で広報活動に取り組むとともに、より多くの受験生とその保護者に本校の魅力を伝える。															
			達成方法	塾訪問・学校説明会等を教職員全体で行う。															
				学校見学、オープンディなどにおいて、アドミッションスタッフが活躍する機会を活用し、大妻中野生の良さを受験生が直接感じる機会を設ける															
		項目2	目標	School Missionのもと、本校が育てたい生徒像を説明会や合同相談会等でより多くの受験生家庭に広報する。															
			達成方法	情報発信を効果的にを行い、より多くの受験生とその保護者に学校を知ってもらう。															
				ホームページの情報updateを定期的かつ細やかに行う。															
				説明会に関して、参加対象に応じてオンサイト・オンラインを目的に合わせて使い分ける。															
			SNSを利用した発信を積極的に行い、学校の様子を伝える。																
			項目3	目標	海外帰国生およびG L C生の受験者増、入学者増を目指す。														
				達成方法	シンガポール会場入試・オンライン入試を継続実施し、より海外在留中の受験生に本校を受験する機会を設ける。														
		GLCにおいて、より幅広い帰国生層の受け入れ態勢や、G L Cの教育実績を示すことで、入学者数増につなげる。																	
				国外の広報活動において、海外塾のネットワークの有効利用に努める。															
		項目1		項目2		項目3													
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度												
部署コード/平均		4.00	3.62	3.77	3.15	3.92	3.31												
1		4	4	4	3	4	3												
2		4	4	4	4	4	3												
3		4	4	4	4	4	4												
4		4	4	4	4	4	4												
5		4	3	4	4	4	3												
6		4	2	4	1	4	2												
7		4	3	4	3	4	3												
8		4	4	3	4	4	4												
9		4	4	3	3	4	3												
10		4	4	3	3	3	4												
11		4	4	4	2	4	3												
12		4	4	4	4	4	4												
13		4	3	4	2	4	3												
<取組状況・次年度への課題など>																			
項目1に関しては、学校全体として計画的に取り組むことができ、最終的には目標通りの入学予定者を確保できたが、受験者数では前年度比で減となった。この点は内的な問題だけではなく様々な要因があるとはいえるが、これからの小学生人口減を見通すと、課題は残る。項目2においても、予定通りの広報活動を行ったが、オンライン系説明会や、SNSの発信は、その取り組みが担当者以外にはなかなか伝わりづらく、達成度評価の低さになったと考えられる。実際、数字的にはオンライン説明会での集客は前年度を上回っている。3つ目の項目では、結果としてシンガポール会場、オンライン共に受験者減となった。ただし、入学予定者はほぼ昨年度並みとなったことは、若干ながら手続き率が上がったということで評価ができる。海外帰国生の募集に関しては、入試実施上の制約が年々厳しくなるとともに、帰国生入試を実施する学校が増えてきていることから、本校の帰国生教育の実績や、内容をより差別化して広報していく必要がある。今後に向けて、本校を第一志望とする受験生をより増やしていきたい。																			

令和6(2024)年度 学校経営計画 各部署重点目標と達成方法

		グローバル・センター 2024年度重点目標 Global Center - The Goals to achieve for 2024													
<div>重要度</div> <div>[4] 大変に重要 [3] やや重要 [2] あまり重要でない [1] 重要でない</div> <div>達成度</div> <div>[4] 75～100% (ほぼ達成した) [3] 50～74% (まあまあ達成した) [2] 25～49% (あまり達成できなかった) [1] 0～24% (ほとんど達成できていない)</div>	項目1	G o a l	スクールミッションの実現を目指し、SGHネットワーク、ユネスコスクールとしての取り組みを、Beyond School 活動、高大連携と関連させて、さらに進める。 To further enhance our educational activities (classes in curriculum and extracurricular projects) for global context to cultivate students' global citizenship and acquire intercultural competence and mindset for coexistence in global diversity.												
		S t r a t e g y	ユネスコ・スクール+SGHネットワーク校として、国内外の様々な機関、学校、大学と協働し、様々なプログラム、コンテストに生徒と一緒に取り組む。具体的には、Model UN, HLAB, Debate, TEDx, SGH Forum, FPT などのプログラムの情報提供や参加、企画、実施を進め、その進行状況を校務運営会議を始め、TEAMSなどで、報告、共有する。参加生徒のフィードバックも共有して、成果物とする。 外国語科、地歴公民社会科、理科など、教科との連携を進め、プログラムへ参加する生徒をファシリテイトする。特に、GLCの外国語教育、GIS、フロンティアプロジェクトを更に充実させ、生徒のフィードバック、学んだことの言語化をはかり、成果を目に見える形にして、より一層の共有を進める。 As a UNESCO School + SGH Network School, work with students on various programs and contests in collaboration with various domestic and international organizations, schools, and universities, including Model UN, HLAB, HENdA, WISH, TEDx, SGH Forum, etc. We encourage students to participate in these various programs, and share their achievements via TEAMS, etc with all. To promote collaboration with the foreign language department, the social studies department, and to encourage students to participate in programs together. In particular, we will further enhance GLC's foreign language education, GIS, and Frontier Project Team. Along with that, their achievement and feedback by students will be promoted to make their achievements visible and shared even more.												
			生徒の進路実現をサポートする。日本の大学受験が海外の大学の仕組みにシフトしていることを踏まえる。留学やグローバル系、リベラルアーツ系、海外大への進学サポートに具体的に取り組む。 In order to help students realize global careers, we will promote more support for studying abroad and applying to universities in Japan and overseas in light of the shift in Japanese university entrance examinations toward a Western approach.												
			卒業生を積極的に活用し、その経験を在校生に共有できるようにする。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム企画、参加指導、国内大学(English Track)、海外大進学ガイダンスや相談、留学相談などをonlineと対面のハイブリッドで行う。また、IELTS、TOFEL等のサポートもグローバルチューターを活用し、さらに進める。 「トビタテ！留学JAPAN」、「HLAB」、「コリブリ」などと連携し、それぞれの留学や進学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などを積極的に実施していく。 Actively utilize alumni to share their experiences with current students. In addition, to collaborate with native English faculty to plan various international programs, and offer guidance and counseling for students who wish to study at domestic and foreign universities as well as study abroad counseling. Additionally, support for IELTS, TOFEL, etc. will be further promoted through the use of global tutors. By collaboration with Tobitate! Study Abroad JAPAN", "HLAB", "American Embassy", "British Council", "Australian State Governments", "French Embassy", "Colibri", etc., we will actively encourage students to take on the challenge of studying abroad and entering higher education programs, and will hold briefing sessions and debriefing sessions for these programs online.												
			S t r a t e g y	グローバル教育、帰国生教育、GLCの成果を一層、内外にアピールし、広報活動に繋がる取り組みをグローバルセンターの教職員の特性を活かして進める。編入対応により、一層の帰国生の入学者の確保に努める。 Efforts will be made to further promote our GLC and 20 years of returnee education both inside and outside the school, and to utilize the characteristics of the Global Center faculty and staff to promote public relations activities. 編入試験での面接対応や帰国小学生英語講座などをより一層充実させ、北米、ヨーロッパ、アジアと世界規模で本校の取り組みとその成果を普及させる。その際、日本人教員だけではなく、様々な国籍を持つ教職員の特性をより活かせるようにする。 大妻女子大学、英語教育研究所、玉川大学教育学部ユネスコクラブ、日本国際連合協会、文科省グローバル化に対応した外国語教育推進事業研究校（慶應義塾大学、早稲田大学、大東文化大学など）との連携をより一層進め、その成果を校内外に発信する。 To further enhance our efforts and results on a global scale in North America, Europe, and Asia by providing interview support for transfer exams and English classes for returning elementary school students. In doing so, we will make the best use of not only Japanese teachers but also teachers and staff of various nationalities. To Further promote collaboration with Otsuma Women's University Institute for English Education, the UNESCO Club of Tamagawa University's Faculty of Education, the United Nations Association of Japan, MEXT and some faculty of Keio University, Waseda University, Daito Bunka University, we will disseminate its benefits both inside and outside the school.											
	項目2	G o a l	卒業生を積極的に活用し、その経験を在校生に共有できるようにする。また、英語ネイティブ教員との協働による様々な国際プログラム企画、参加指導、国内大学(English Track)、海外大進学ガイダンスや相談、留学相談などをonlineと対面のハイブリッドで行う。また、IELTS、TOFEL等のサポートもグローバルチューターを活用し、さらに進める。 「トビタテ！留学JAPAN」、「HLAB」、「コリブリ」などと連携し、それぞれの留学や進学プログラムへのチャレンジをさらに積極的に生徒に薦め、そのための説明会、報告会などを積極的に実施していく。 Actively utilize alumni to share their experiences with current students. In addition, to collaborate with native English faculty to plan various international programs, and offer guidance and counseling for students who wish to study at domestic and foreign universities as well as study abroad counseling. Additionally, support for IELTS, TOFEL, etc. will be further promoted through the use of global tutors. By collaboration with Tobitate! Study Abroad JAPAN", "HLAB", "American Embassy", "British Council", "Australian State Governments", "French Embassy", "Colibri", etc., we will actively encourage students to take on the challenge of studying abroad and entering higher education programs, and will hold briefing sessions and debriefing sessions for these programs online.												
		S t r a t e g y	グローバル教育、帰国生教育、GLCの成果を一層、内外にアピールし、広報活動に繋がる取り組みをグローバルセンターの教職員の特性を活かして進める。編入対応により、一層の帰国生の入学者の確保に努める。 Efforts will be made to further promote our GLC and 20 years of returnee education both inside and outside the school, and to utilize the characteristics of the Global Center faculty and staff to promote public relations activities. 編入試験での面接対応や帰国小学生英語講座などをより一層充実させ、北米、ヨーロッパ、アジアと世界規模で本校の取り組みとその成果を普及させる。その際、日本人教員だけではなく、様々な国籍を持つ教職員の特性をより活かせるようにする。 大妻女子大学、英語教育研究所、玉川大学教育学部ユネスコクラブ、日本国際連合協会、文科省グローバル化に対応した外国語教育推進事業研究校（慶應義塾大学、早稲田大学、大東文化大学など）との連携をより一層進め、その成果を校内外に発信する。 To further enhance our efforts and results on a global scale in North America, Europe, and Asia by providing interview support for transfer exams and English classes for returning elementary school students. In doing so, we will make the best use of not only Japanese teachers but also teachers and staff of various nationalities. To Further promote collaboration with Otsuma Women's University Institute for English Education, the UNESCO Club of Tamagawa University's Faculty of Education, the United Nations Association of Japan, MEXT and some faculty of Keio University, Waseda University, Daito Bunka University, we will disseminate its benefits both inside and outside the school.												
			S t r a t e g y												
	項目3	G o a l	グローバル教育、帰国生教育、GLCの成果を一層、内外にアピールし、広報活動に繋がる取り組みをグローバルセンターの教職員の特性を活かして進める。編入対応により、一層の帰国生の入学者の確保に努める。 Efforts will be made to further promote our GLC and 20 years of returnee education both inside and outside the school, and to utilize the characteristics of the Global Center faculty and staff to promote public relations activities. 編入試験での面接対応や帰国小学生英語講座などをより一層充実させ、北米、ヨーロッパ、アジアと世界規模で本校の取り組みとその成果を普及させる。その際、日本人教員だけではなく、様々な国籍を持つ教職員の特性をより活かせるようにする。 大妻女子大学、英語教育研究所、玉川大学教育学部ユネスコクラブ、日本国際連合協会、文科省グローバル化に対応した外国語教育推進事業研究校（慶應義塾大学、早稲田大学、大東文化大学など）との連携をより一層進め、その成果を校内外に発信する。 To further enhance our efforts and results on a global scale in North America, Europe, and Asia by providing interview support for transfer exams and English classes for returning elementary school students. In doing so, we will make the best use of not only Japanese teachers but also teachers and staff of various nationalities. To Further promote collaboration with Otsuma Women's University Institute for English Education, the UNESCO Club of Tamagawa University's Faculty of Education, the United Nations Association of Japan, MEXT and some faculty of Keio University, Waseda University, Daito Bunka University, we will disseminate its benefits both inside and outside the school.												
		S t r a t e g y	グローバル教育、帰国生教育、GLCの成果を一層、内外にアピールし、広報活動に繋がる取り組みをグローバルセンターの教職員の特性を活かして進める。編入対応により、一層の帰国生の入学者の確保に努める。 Efforts will be made to further promote our GLC and 20 years of returnee education both inside and outside the school, and to utilize the characteristics of the Global Center faculty and staff to promote public relations activities. 編入試験での面接対応や帰国小学生英語講座などをより一層充実させ、北米、ヨーロッパ、アジアと世界規模で本校の取り組みとその成果を普及させる。その際、日本人教員だけではなく、様々な国籍を持つ教職員の特性をより活かせるようにする。 大妻女子大学、英語教育研究所、玉川大学教育学部ユネスコクラブ、日本国際連合協会、文科省グローバル化に対応した外国語教育推進事業研究校（慶應義塾大学、早稲田大学、大東文化大学など）との連携をより一層進め、その成果を校内外に発信する。 To further enhance our efforts and results on a global scale in North America, Europe, and Asia by providing interview support for transfer exams and English classes for returning elementary school students. In doing so, we will make the best use of not only Japanese teachers but also teachers and staff of various nationalities. To Further promote collaboration with Otsuma Women's University Institute for English Education, the UNESCO Club of Tamagawa University's Faculty of Education, the United Nations Association of Japan, MEXT and some faculty of Keio University, Waseda University, Daito Bunka University, we will disseminate its benefits both inside and outside the school.												
				項目1		項目2		項目3							
		重要度	達成度	重要度	達成度	重要度	達成度								
部署コード/平均		3.75	3.25	3.75	3.25	3.75	3.13								
1		3	2	3	3	3	3								
2		4	4	4	4	4	3								
3		3	2	3	2	3	3								
4		4	4	4	4	4	3								
5		4	3	4	3	4	3								
6		4	3	4	3	4	3								
7		4	4	4	4	4	4								
8		4	4	4	3	4	3								
<取組状況・次年度への課題など>															
1. 項目1について。2024年度は、SGHネットワーク校として4年目、ユネスコスクール加盟校として3年目として、これまでの実績をまとめ、文部科学省WWLコンソーシアム構築支援事業へ申請、採択されたことは、大きな実績となった。2014年度にSGHへの申請を開始して、10年。それまでの取り組みをまとめ、一層の進展に向かい、本校のグローバル教育が新しいフェーズに入ったことが実感される年度となった。また、大妻間連携も一層進み、大妻模擬国連が継続的に実施され、またWWLでも大妻多摩中高と連携して、多摩校の生徒を迎えての取り組みが継続された。Beyond School が特別なことではなく、日常となり、その成果の報告や共有もなされるようになった。次年度は、WWLの取り組みをさらに進めたい。 2. 項目2について。生徒の留学は1年、セメスター、ターム留学について、“探究留学”というカリキュラムと連動した留学への土台が出来つつある。トビタテ！留学JAPANでは、学年カリキュラムの中で位置づけられた取り組みが進み、30名近い応募ができた。留学から帰国した生徒たち、卒業生が自主的にその成果を普及させ、特に大学受験に留学経験を活かす方法を後輩に伝える動きが確立しつつある。海外大学進学では、アメリカの大学への合格とともに実際に海外の大学に進学する生徒を複数だすことができた。また、大学進学後の留学体験を卒業生が中高生にフィードバックする機会も増え、留学を自分の将来のキャリアに役立てていこうという意識が高まっている。今後も多様な豊かな進学をサポートしていきたい。 3. 項目3について。帰国小学生英語保持講座の受講生も着実に増加し、この講座出身の多くの生徒が本校の帰国生入試、グローバル入試を受験している。と同時に、この講座出身の入学生が本校全体をリードする存在になっており、大学進学実績でも大きな貢献がある。大妻女子大学教授、服部孝彦教授との連携は14年目となり、また、ユネスコスクール活動での連携は、玉川大学との連携を中心に、東海大学との連携の他、ACCUとの連携も進んでいる。また、文部科学省のグローバル化に対応した外国語教育推進事業も継続しており、さらに、様々な大学、大学の先生方との連携が進んでいる。															